

04203243 フランス語学フランス文学特殊講義Ⅲ 塚本昌則 S1/S2 水曜3限

写真と文学

文学は長いあいだ、写真とのあいだに、蔑視と偏愛の入り混じる複雑な関係を結んできた。写真は科学と芸術に素材を提供するものにすぎないとボードレーは断言し、好きな人の写真はかならず取りそこねるとプルーストは指摘する。その一方で、ローデンバックの『死都ブリュージュ』(1892)、ブルトンの『ナジャ』(1927)、ロラン・バルトの『明るい部屋』(1980)など、写真を作品に取り入れようとする試みが綿々となされてきた。とりわけ『明るい部屋』以降、写真はもはやわき役ではなく、作品の重要な発想源となり、その用いられ方も多様化している。この授業では、写真という独特なイメージのあり方と言葉との関係について考えてゆく。

授業計画

ローラン・ジェニーの写真論を講読しながら、同時に写真を使った作品を毎回プリントで紹介する。1. イントロダクション—写真と文学について 2. ジェニー講読 1; ゼーバルト『アウステルリッツ』 3. ジェニー講読 2; ゼーバルト II『移民たち』、『土星の環』 4. ジェニー講読 3; デュラス『愛人』、『太平洋の防波堤』 5. ジェニー講読 4; ギベール『幻のイマージュ』 6. ジェニー講読 5; モディアノ『ドラ・ブリュデー』 7. ジェニー講読 6; バルト『明るい部屋』 8. ジェニー講読 7; ブルトン『ナジャ』 9. ジェニー講読 8; ブルトン『狂気の愛』 10. ジェニー講読 9; ローデンバック『死都ブリュージュ』 11. ジェニー講読 10; 19世紀末の写真小説 12. ジェニー講読 11; 第一次世界大戦以降の文学と写真 I 13. ジェニー講読 12; 第一次世界大戦以降の文学と写真 II 14. ジェニー講読 13; 第二次世界大戦以降の文学と写真 I 15. ジェニー講読 14; 第二次世界大戦以降の文学と写真 II

授業の方法

テキスト講読を基本とする。

成績評価方法

授業への参加度 50%、期末レポート 50%

教科書

Laurent Jenny, *La brûlure de l'image—L'imaginaire esthétique à l'âge photographique*, Mimésis, 2019(テキストはプリントで配布する)

参考書

ロラン・バルト『明るい部屋』、花輪光訳、みすず書房、1985年

履修上の注意

受講者の積極的な発言を希望する。

04203244 フランス語学フランス文学特殊講義Ⅳ 塚本昌則 A1/A2 水曜3限

フランスの文芸批評

20世紀には、文学理論が先鋭化し、表象の否定(ブランシヨ)、登場人物の否定(ヌーヴォー・ロマン)、「作者の死」(ロラン・バルト)等、それまで文学に不可欠とされていた要素を厳しく批判する言葉が次々に書かれた。こうした文学理論は、その後どのような運命をたどったのだろうか。ここでは、アントワーヌ・コンパニオン『文学をめぐる理論と常識』を基本テキストとして、関連する作品の抜粋も随時プリントで読みながら、文芸批評の現在の姿をたどってみたい。テキストはすべて日本語訳を使用する。

授業計画

アントワーヌ・コンパニオン『文学をめぐる理論と常識』のうち、「文学」、「世界」、「作者」、「価値」の章を中心に読みすすめる。参加者に担当部分の内容について発表してもらい、関連テキストを読み、議論を試みる。1. イントロダクション—文芸批評の現在について 2. コンパニオン講読 1:「序章」—文学理論の射程 3. コンパニオン講読 2:「文学」1—歴史的アプローチと言語学的アプローチの対立; サルトル『文学とは何か』、バルト『エクリチュールのゼロ度』 4. コンパニオン講読 3:「文学」2—詩とフィクションの対立; ブランシヨ『文学空間』 5. コンパニオン講読 4:「作者」1—ロラン・バルト「作者の死」 6. コンパニオン講読 5:「作者」2—フーコー「作者とは何か」 7. コンパニオン講読 6:「作者」3—文献学とアレゴリー; ガダマー『真理と方法』 8. コンパニオン講読 7:「世界」1—アウエルバツハ『ミメシス』 9. コンパニオン講読 8:「世界」2—リクール『時間と物語』1 10. コンパニオン講読 8:「世界」3—リクール『時間と物語』2 11. コンパニオン講読 10:「価値」1—規範か経験か 12. コンパニオン講読 11:「価値」2—サント＝ブーヴ「古典とは何か」 13. コンパニオン講読 12:「読者」1—バルト『テキストの快楽』 14. コンパニオン講読 13:「読者」2—リクール『時間と物語』3 15. コンパニオン講読 14:「文体」—ジル・フィリップ『主語、動詞、目的語—フランス文学における文法的瞬間 1890-1940』

授業の方法

テキスト講読を基本とし、発表者による報告、関連テキストの紹介、議論によって内容への理解を深めることを目指す。

成績評価方法

授業への参加度 50%、期末レポート 50%

教科書

アントワーヌ・コンパニオン『文学をめぐる理論と常識』、中地義和/吉川一義訳、岩波書店、2007年

参考書

『フランス文学講座6 批評』、大修館書房、1980年

履修上の注意

フランス文学への入門のひとつとして、批評テキストを翻訳で読む授業。フランス語の知識は不要。

04203261 フランス語学フランス文学演習Ⅰ 塚本昌則 S1/S2 火曜3限

フランスの短編小説を読む—メリメ「マテオ・ファルコーネ」を中心に—

フランス近代の散文ではどうしても長編小説に目が行きがちだが、メリメ、ノディエ、ゴーチエ、ヴィリエ・ド・リラダン、モーパッサンなど、優れた短編を書いた作家も数多く存在する。ここでは『カルメン』の作者による短編小説、具体的には「マテオ・ファルコーネ」を読み、心理描写を排し、非情な行動に焦点化してゆく作品の魅力に触れてみたい。この短編を読了したら、メリメのもうひとつの代表作「コロンバ」を可能な範囲で読みすすめる。

またフランス語読解と並行し、授業の三分之一を使って、他の作家のさまざまな作品を翻訳で読みながら、短編小説の多様性について考える。

授業計画

授業の三分の二は、メリメの短編小説をフランス語で読む。三分の一は、短編作品の翻訳を毎回ひとつ取りあげ、ディスカッションを試みる。以下の作品を読む予定だが、参加者の反応次第では予定とは違う作品を読む可能性がある(テキストはプリントで配布する)。

1. イントロダクション—短編小説とは何か?
2. メリメ講読 1; モーパッサン「首飾り」
3. メリメ講読 2; ヴァレリー・ラルボー「ローズ・ルルダン」
4. メリメ講読 3; ロジェ・グルニエ「フラゴナールの婚約者」
5. メリメ講読 4; ガスカール「獣たち」
6. メリメ講読 5; ジュリアン・グリーン「クリスチーナ」
7. メリメ講読 6; デ・フォレ「子供部屋」
8. メリメ講読 7; クンデラ「失われた手紙」
9. メリメ講読 8; ピエール・ド・マンディアルグ「ダイヤモンド」
10. メリメ講読 9; モーパッサン「オルラ」
11. メリメ講読 10; ノディエ「スマラ」
12. メリメ講読 11; ヴィリエ・ド・リラダン「断頭台の秘密」
13. メリメ講読 12; ゴーチエ「死霊の恋」
14. メリメ講読 13; ジュール・シュペルヴィエル「ノアの箱船」
15. メリメ講読 14; デュラス「ボア」

授業の方法

テキスト講読を基本とする。翻訳作品については、毎回担当を決め、内容や書き方について発表してもらう。

成績評価方法

授業への参加度 60%、範囲を定めた上でのフランス語読解の期末試験(ただし、フランス語になれていない参加者にはレポートを課す)40%

教科書

Mérimée, La Vénus d'Ille, suivi de Colomba et de Mateo Falcone, coll. « Folio / Classique », 2000

参考書

『フランス短編傑作選』山田稔編訳、岩波文庫、1991年

履修上の注意

授業への参加度を重視する。

04203262 フランス語学フランス文学演習Ⅱ 塚本昌則 A1/A2 火曜3限

アニー・エルノー『娘の回想』を読む

現代作家アニー・エルノーは、自伝という形式に新たな生命を吹きこんだ。自分の人生を素材としながら、その人生にひとつの形をあたえ、破壊し、一新してゆくものとして、20世紀後半の歴史の流れを浮き彫りにしていった。自伝を、個人の人生を回想する形式としてではなく、掴みがたい現代という時代を把握する探究の道具としたのである。デュラスの『愛人』を思わせる、撮られなかった写真をめぐる物語、シャンソンの歌詞、街中に貼られたポスターの描写、アルジェリア戦争のテレビ報道など、断片的で多様な書法によって描かれるひとつの時代の肖像をたどってみたい。

授業計画

初回に、フランス文学における自伝、オートフィクションについて紹介する。2回目以降は、アニー・エルノーの作品を読みすすめる。テキストの内容に応じて、相互関連テキストを随時プリントで紹介する。1. イントロダクション—1980年代以降の文学における自伝 2. エルノー講読 1; エルノーとピエール・ブルデュエについて 3. エルノー講読 2; 19世紀における自伝と社会の関係 4. エルノー講読 3; 自伝とオートフィクション 5. エルノー講読 4; ジャン＝ルイ・ジャンネルの20世紀における回想録の研究 6. エルノー講読 5; 自伝と写真 7. エルノー講読 6; エルノーの小説における写真の使用法 8. エルノー講読 7; ロブ＝グリエ『戻ってくる鏡』 9. エルノー講読 8; ロブ＝グリエ『新しい小説のために』、『ある作家生活への序文』 10. エルノー講読 9; エルノーとデュラス 11. エルノー講読 10; エルノーとドゥニ・ロッシュ 12. エルノー講読 11; エルノー『歳月』1 13. エルノー講読 12; エルノー『歳月』2 14. エルノー講読 13; エルノー『場所』1 15. エルノー講読 14; エルノー『場所』2

授業の方法

テキスト講読を基本とする。

成績評価方法

授業への参加度 50%、期末レポート 50%

教科書

Annie Ernaux, *Mémoire de fille*, Gallimard, coll. « Folio », 2016

参考書

Fabien Arribert-Narce et Alain Ausoni, *L'autobiographie entre autres : écrire la vie aujourd'hui*, Peter Lang, 2013

履修上の注意

受講者の積極的な発言を希望する。

04203211 フランス文学史概説 塩塚秀一郎 A1/A2 月曜3限

フランス文学入門

十七世紀から二十世紀の主要作家の作品から毎回ふたつほど選び、日本語訳の抜粋を参照しつつ、作家・作品・ジャンル・時代について概略的に把握する。

ごく一部については原典と対照することによって、フランス語原文の多様な様相をも実感してもらいたい。

授業計画

第1回: イントロダクション 第2回: ラ・フォンテーヌ、パスカル 第3回: ラシーヌ、モリエール 第4回: ラファイエット夫人、モンテスキュー 第5回: ヴォルテール、デイドロ 第6回: ルソー、スタンダール 第7回: バルザック、ネルヴァル 第8回: フロベール、ゾラ 第9回: ユゴー、ボードレール 第10回: ランボー、マラルメ 第11回: プルースト、ジッド 第12回: サルトル、カミュ 第13回: 予備日

授業の方法

講義と演習をまぜあわせたような授業形態を構想している。作品の主要な特徴や読みどころなどについて、教員がひととおりは指摘するが、学生からの意見発表も期待している。事前に翌週扱う作品については予告するので、ぜひ、日本語訳で読破したうえで授業に臨んで欲しい。

成績評価方法

授業への参加度(出席状況、発表の出来)と期末のレポートを勘案して評価する。参加者が少ない場合、授業への貢献のみで評価する場合もある。

教科書

柏木隆雄他編、『レクチュールの冒険: 新編・フランス文学選』、朝日出版社、2005 必要に応じてコピーを配付する

参考書

田村毅・塩川徹也編、『フランス文学史』、東京大学出版会、1995

履修上の注意

フランス語能力は問わないが、仏文科の学生への教育的配慮として、授業の一部でフランス語原文を参照する場合がある。

04203245 フランス語学フランス文学特殊講義Ⅴ 塩塚秀一郎 S1/S2 月曜3限

旅の詩を読む

夢と現実あるいは旅と読書を融合させた三つの詩作品、サンドラール「シベリア鉄道の散文」、ランボー「酔いどれ船」、ボードレール「旅」をフランス語原文で精読しつつ、絶対的孤独の中で〈神〉との絆を失った〈旅する人間〉の肖像を考察する。

授業計画

1. イントロダクション 2. 「シベリア鉄道の散文」(1) 3. 「シベリア鉄道の散文」(2) 4. 「シベリア鉄道の散文」(3) 5. 「シベリア鉄道の散文」(4) 6. 「シベリア鉄道の散文」(5) 7. 「酔いどれ船」(1) 8. 「酔いどれ船」(2) 9. 「酔いどれ船」(3) 10. 「旅」(1) 11. 「旅」(2) 12. まとめ 13. 予備日

授業の方法

少しずつ分担して訳してもらい、単なる訳だけではなく、作品全体を視野に入れたコメントを付けることを強く要望する。また、プレイヤード版などの注釈を読み、概略を紹介することも、分担者の役割とする。

成績評価方法

授業への参加度(出席状況、発表の出来)と期末のレポートを勘案して評価する。演習への参加者が少ない場合、授業への貢献のみで評価する場合もある。

教科書

コピーを配付する。

参考書

Pierre Bayard, Comment parler des lieux où l'on n'a pas été ?, Les Éditions de Minuit, 2012

履修上の注意

フランス語初級文法を学び終えていること。

04203263 フランス語学フランス文学演習Ⅲ 塩塚秀一郎 S1/S2 火曜2限

レーモン・ルーセル『ロクス・ソルス』を読む

ロクス・ソルス荘(ラテン語で〈孤独な場所〉)に暮らす裕福な独身科学者マルシャル・カントレルは、親しい人々をこの別荘に招き自分の驚異的な発明品・秘蔵品を見せてまわる。その際の品々の描写と発明や獲得に到る経過の説明が小説内容のすべてである。秘蔵品の提示部分は細密な描写からなるため読みにくい、品々の由来を説明する部分は波瀾万丈で楽しい読み物となっている。今回の授業では、モノの提示部分は翻訳などを使って簡単に済まし、物語部分をフランス語原文で堪能したい。とりわけ、書くこと、規則、効果、機械など、自己言及的な要素に着目しつつ、詩人ジェラルール・ローウェリイの逸話を中心に読み解きたい。

授業計画

1. イントロダクション 2. 詩人ジェラルール・ローウェリイ(1) 3. 詩人ジェラルール・ローウェリイ(2) 4. 詩人ジェラルール・ローウェリイ(3) 5. 詩人ジェラルール・ローウェリイ(4) 6. 詩人ジェラルール・ローウェリイ(5) 7. ロラン・ド・マンドブール(1) 8. ロラン・ド・マンドブール(2) 9. ロラン・ド・マンドブール(3) 10. 女占い師フェリシテ(1) 11. 女占い師フェリシテ(2) 12. 女占い師フェリシテ(3) 13. 予備日

授業の方法

少しずつ分担して訳してもらおう。単なる訳だけではなく、作品全体を視野に入れたコメントを付けることを強く要望する。

成績評価方法

授業への参加度(出席状況、発表の出来)と期末のレポートを勘案して評価する。演習への参加者が少ない場合、授業への貢献のみで評価する場合もある。

教科書

Roussel, Locus Solus, GF Flammarion, 2005

参考書

Michel Carrouges, Les Machines célibataires, Le Chêne, 1976 Michel Foucault, Raymond Roussel, Gallimard, 1963

履修上の注意

フランス語初級文法を学び終えていること。

04203264 フランス語学フランス文学演習Ⅳ 塩塚秀一郎 A1/A2 火曜2限

パトリック・モディアノ『ドラ・ブリュデール』を読む

『ドラ・ブリュデール』(1997)はノーベル文学賞作家パトリック・モディアノによるドキュメンタリーである。アウシュヴィッツに消えた少女ドラ・ブリュデールをめぐるモディアノの探索は、作家自身とその父親の記憶とも交錯しつつ、1941年のパリの厳冬を浮かびあがらせる。この演習では重要な箇所をフランス語原文で精読しつつ、自らは経験していない悲劇を言語化する際、小説家がドキュメンタリーという形式とどのように向き合い、何をその真髄と見なしていたのか考えてみたい。

授業計画

1. イントロダクション 2. 尋ね人広告 3. オルナノ大通り 4. 忘却の番人 5. 数枚の写真 6. 1960年の〈脱走〉 7. 一斉検挙で逮捕された父 8. 反ユダヤ主義作家の本 9. 映画「初めての逢いびき」 10. 警視総監宛の手紙 11. 聖マリア学院 12. 彼女の秘密 13. まとめ

授業の方法

分担箇所を日本語に訳し若干のコメントをつけてもらう。分量については、フランス語学習歴に応じて配慮する。

成績評価方法

授業への参加度(出席状況、訳読とコメントの出来)と期末のレポートを勘案して評価する。参加者が少ない場合、授業への貢献のみで評価する場合もある。

教科書

Patrick Modiano, Dora Bruder, Gallimard (folio), 1999

参考書

パトリック・モディアノ著、白井成雄訳、『1941年。パリの尋ね人』、作品社、1998 Annelise Schulte Noroholt, Perec, Modiano, Raczymow : La génération d'après et la mémoire de la shoah, Rodopi, 2008. イヴァン・ジャブロンカ、真野倫平訳、『歴史は現代文学である 社会科学のためのマニフェスト』、名古屋大学出版会、2018

履修上の注意

フランス語初級文法を学び終えていること。

04203221 フランス語圏文化 王寺賢太 A1/A2 水曜 4限

現代文芸批評入門／ルソー入門：ジャン・スタロバンスキー『ルソー 透明と障害』読解

ジャン・スタロバンスキーの『ジャン=ジャック・ルソー 透明と障害』を日本語で読み、現代文芸批評の手法とルソーの著作について知見を深めることが、この授業の目的である。

ジャン=ジャック・ルソーは、言うまでもなく、政治思想（『学問技芸論』『人間不平等起源論』『社会契約論』など）・小説（『新エロイズ』）・自伝作品（『告白』『ルソー、ジャン=ジャックを裁く』『孤独な夢想者の散歩』）といったさまざまなジャンルで後世に残る圧倒的な仕事を残した18世紀の思想家・作家である。ルソーの諸作品をめぐることは、現在に至るまで、統一的・整合的解釈をめぐる長く議論が続けられてきた。スタロバンスキーの博士論文であり、事実上のデビュー作である『透明と障害』は、ルソー読解史上のさまざまな難問に対し、ルソーの一群の作品を作家ルソーが抱えた実存的な問題を追及する一貫したテキストとしてとりあげ、ルソー解釈史上に大きな足跡を残した著作である。スタロバンスキーはその際、自伝的作品をはじめ、ルソー自身が残した自己言及的なテキスト群を重視しながら、ジャンルや作品の違いを越えてルソー的テキストに反復される「主題」の照応から出発し（「テーマ批評」）、精神医学・精神分析的な枠組みを借りながら、それをルソーという主体・「実存」の問題として読み解こうとする。そこで注目される「主題」の最たるものが、「透明と障害」の対立軸だった。

本講義では、このスタロバンスキーの著作を日本語で読み、一方では、スタロバンスキーがルソーのテキストをどのようにとりあげ、記述・分析しているかを受講者とともに議論する。その際、『透明と障害』の前提となる、ルソー研究史、テーマ批評の手法、精神分析・精神医学的枠組み、実存主義哲学（サルトル）にも適宜解説を加える。名著の誉れ高いスタロバンスキーのルソー論だが、そのアプローチの限界を見きわめることも課題の一つである。他方、『透明と障害』の読解は、それ自体、ルソーの著作についての最良の入門ともなるだろう。

授業計画

本講義では、『透明と障害』の構成にしたがって順次、ルソーの各著作とスタロバンスキーがそこから取り出す各種第二ついで議論する。ただし、スタロバンスキーがそれぞれの章で取り上げるルソーの著作はつねに複数であり、いずれの場合も自伝的・自己言及的なテキストに特権的な地位が与えられている。①『学問芸術論』：「見かけ」と「存在」の分離 ②『人間不平等起源論』と『社会契約論』1：エンゲルスの道とカント／カッシーラーの道 ③『人間不平等起源論』と『社会契約論』2：スタロバンス

キーの道—社会批判から「実存」へ ④ ルソーと同時代の哲学者たち:ルソー的「孤独」の弁証法—「総合」の模索 ⑤『寓意断章』と『ピグマリオン』:「ヴェール」と「ヴェール」を剥ぐこと ⑥『新エロイズ』1:恋愛小説の政治経済学的読解 ⑦『新エロイズ』2:ジュリーの死 ⑧『エミール』ほか:ルソー作品における「誤解」 ⑨ 自伝作品の諸問題:『告白』『ルソー、ジャン=ジャックを裁く』『孤独な夢想者の散歩』 ⑩『告白』:反省性の陥穽 ⑪『ルソー、ジャン=ジャックを裁く』:不可能な訴訟 ⑫『孤独な夢想者の散歩』:「透明性」のなかでの大団円? ⑬ 予備

授業の方法

講義参加者には、『透明と障害』各章のうち何節かのレジюмеを作成してもらい、そのレジюмеを検討しながら、講義参加者とともに、スタロバンスキーがこの著作でルソーのテキストのどの箇所をとりあげ、それをどのように記述・分析し、自分自身の議論を展開しているかを検討する。

成績評価方法

授業参加・レジюме担当・期末レポートを勘案して総合的に評価する。

教科書

ジャン・スタロバンスキー『ルソー 透明と障害』山路昭訳、みすず書房、1993年。

参考書

『ルソー全集』白水社、一九七八—八四年、全16巻。他、授業中に適宜指示する。

履修上の注意

本講義では、スタロバンスキーの著作をフランス語ではなく日本語で通読し、文学・思想的なテキストについて研究・批評を書く手法について具体的に学ぶことを主眼とする。ただし、適宜ルソー／スタロバンスキーのフランス語原典に言及することはありえる。講義参加者には、各講義に先立って、該当箇所をあらかじめ読んでおくことが望まれる。

その他

論文執筆を控え、自分の選択した対象にどのようにアプローチすれば良いか、それをどのように論じたら良いか、迷いを抱えた学生もあると思います。文学・思想研究では、それぞれの対象との格闘や先行研究との対話から、その対象に適った「方法」が見出されるもので、一般的に応用可能な「方法論」はありませんが、文学・思想的なテキストを論じる良質の研究や批評に触れることは、それぞれの対象に取り組む際のヒントにはなるでしょう。この講義が、スタロバンスキーの著作の読解を通じて、テキストをいかに論じるかについて、ささやかなヒントを提供することができれば幸いです。

04203246 フランス語学フランス文学特殊講義 VI 王寺賢太 S1/S2 水曜 4限

フーコー読解入門:「批判とは何か」を読む

ミシェル・フーコーが1978年、フランス哲学会で行った講演「批判とは何か」は、カントが提起した「批判」と「啓蒙」という二つの問題系について独自の解釈を施しつつ、『狂気の歴史』から『監獄の誕生』へ、さらには『性の歴史』へと展開するフーコー自身の仕事の問題設定と方法論を提示する小論である。同年のコレージュ・ド・フランス講義『安全・領土・人口』の新自由主義論を踏まえながら、西欧近世に勃興する「批判」の核心にく(あれこれのしかたで)統治されない決断を認め、カントとは逆に、この決断から、知・権力・自己のもつれ合いを再審する「啓蒙」の問いへと向かうフーコーの論は、そのまま、1984年に没する

この哲学者晩年の〈パレーシア〉(命がけて真理を言うこと)論、さらには啓蒙論へと通じている。

講義ではこの講演をフランス語原典で精読し、フーコーが示す西欧思想史概観を解説しながら、この哲学者独自の問題設定と方法論について知見を深めることを目指す。つまりこの講義では、①フランス語の哲学・思想的テキストの読解力をつける、②西欧近世・近代思想史についての概説的知識を得る、③フーコーを人文社会科学に応用可能な単なる方法論としてではなく、この哲学者の思考の独自性を尊重しながら理解し、入門的な知見を得る、という一石三鳥が目指されている。

授業計画

① イントロダクション: ミシェル・フーコーと「批判とは何か」 ② 「批判」と「統治」 ③ 西欧近世における「批判」1: 聖書批判 ④ 西欧近世における「批判」2: 自然法学 ⑤ 西欧近世における「批判」3: カントの批判哲学(自然科学の認識論的基礎づけ) ⑥ 「啓蒙」から「批判」へ: カントの選択 ⑦ 「批判」と「啓蒙」: ドイツにおける合理性批判の伝統(ウェーバー、現象学、フランクフルト学派 etc.) ⑧ 「批判」と「啓蒙」: フランスにおける合理性批判の伝統(サルトル、フランス・エピステモロジー) ⑨ 「批判」から「啓蒙」へ: フーコーの選択 ⑩ フーコー的批判の問題設定: 「知」「権力」「自己」の関係とその「出来事化」 ⑪ フーコー的批判の方法 1: 「考古学」と「系譜学」 ⑫ フーコー的批判の方法 2: 「戦略」 ⑬ 予備

授業の方法

基本的に、講義の参加者にはフランス語原典の訳読を担当してもらい、その訳文を検討しながら、フーコーの所論の内容について解説を加え、議論する。

成績評価方法

購読での訳読の担当と、期末レポートの双方を加味して評価する。

教科書

Michel Foucault, *Qu'est-ce que la critique ? suivi de La culture de soi*, Paris, Vrin, 2015. (フランス語フランス文学研究室で販売)

参考書

授業中に指示する。

履修上の注意

履修者はフーコーや哲学史についての予備知識は一切必要としないが、フーコーのテキストをフランス語原典で読解する意欲が求められる。

04203266 フランス語学フランス文学演習 V 王寺賢太 S1/S2 金曜 3限

18世紀の演劇と性差の問題: マリヴォー『植民地』を読む

マリヴォーは、性・身分・年齢など、旧体制下に生きる人々を規定するさまざまな属性をもった登場人物を舞台に乗せ、彼／彼女ら相互の関係を複雑に交錯させながら、各登場人物が自身の社会的役柄を演ずる際の言葉の二重性を巧みに用いた恋愛喜劇で知られる、18世紀前半のフランスの作家です。本講義では、このマリヴォーの喜劇作品のうち、1729年に初演されたままお蔵入りし、その後、1750年に雑誌『メルキュール・ド・フランス』に改稿のうえ発表された一幕喜劇『植民地 La Colonie』

をフランス語原文で読解します。この喜劇は、戦争に敗北してとある島(「植民地」)に避難したある国の男女が、新たな政府を打ち立てようとした際に、女性たちが身分差を越えて一致団結し、従来の男性支配の打倒を誓うところから始まる男女間の騒動を描く作品で、この作品によって今日、マリヴォーは時代にはるかに先駆けて「フェミニズム」的観点をもった作家として評価されています。

本講義では、マリヴォーがこのいわゆる「フェミニズム」的観点を 18 世紀前半のどのような歴史的背景のなかで持ちえたのか、またそれがマリヴォー自身の劇作のどのような選択から生まれたものかに留意しながら、この喜劇を読解します。その過程では、古典主義時代の演劇についても適宜解説を加えます。なにより、このきわめて現代的な喜劇を原文で読み、マリヴォーダージュとも言われるマリヴォー特有の巧妙な台詞回しを楽しみ、そこから垣間見える酷薄とも言える道徳論・政治論の理解を進めることを目指します。

授業計画

本講義では以下の各テーマを扱う予定です ① マリヴォーと 18 世紀前半の文化:ロココの時代 ② 18 世紀の演劇:王国の文化装置、悲劇・喜劇の二大ジャンルの衰退 ③ 転倒の島:「植民地」という舞台設定 ④ 男性支配打倒の誓い:身分差を越えた女性たちの結託 ⑤ 古代ギリシアという参照項:先行者アリストファネス、男性支配の下での民主政 ⑥ 恋愛、結婚、恋愛=結婚?:男女間の力関係と身分差、年齢差 ⑦ 闘う女たちの共和主義:男性支配の転倒と反復? ⑧ 文明化の旗手としての女性? ⑨ 女たちの争い (1):「美しさ」は誰のものか ⑩ うろたえる男たち:役割と愛の相克 ⑪ 女たちの争い (2):性差と身分 ⑫ 男たちの詭計:戦争というリミット ⑬ 予備

授業の方法

基本的に、講義の参加者にはフランス語原典の訳読を担当してもらい、その訳文を検討しながら、マリヴォーの劇作品について解説を加える。

成績評価方法

購読での訳読の担当と、期末レポートの双方を加味して評価する。

教科書

テキストは以下のウェブサイトに掲載されている PDF を各自印刷して下さい。 http://www.theatre-classique.fr/pages/pdf/MARIVAUX_COLONIE.pdf

参考書

授業中に適宜指示する。

履修上の注意

フランス語の読解力をつけることを最大の目標とします。

04203266 フランス語学フランス文学演習 VI 王寺賢太 A1/A2 金曜 3限

モンテスキュー『ペルシャ人の手紙』を読む——摂政期フランスの社会と文化の動揺

モンテスキューの『ペルシャ人の手紙』(1721)は、ペルシャからフランスにやって来た二人のペルシャ人貴族と、ペルシャのハーレムに残された宦官や女たちのあいだの書簡のやりとりを主軸に展開する書簡体小説であり、ルイ XIV 世没後の摂政期の

「ロココ文化」に特徴的な、粋を極める構成で知られる傑作である。同時にこの作品では、フランスとペルシャを対照させ、政治・社会・個々人の(性的)情念が絡み合いながら機能するさまが分析されており、『法の精神』(1748)に結実するモンテスキューの息の長い政治的考察のはじまりを認めることもできる。

本講義では、この作品を通読し、さしあたって、受講者がフランス語を正確に読解する力と、一七世紀後半から一八世紀前半にかけての歴史・政治・社会・文化・文学についての基礎知識を身につけることを目指す。読解にあたっては、とくにモンテスキューがこの作品のなかに張り巡らせたさまざまな「連鎖」——登場人物の連鎖、複数の書簡の時差を孕んだ連鎖、小説と哲学・政治学・道徳論の連鎖——に注目し、一八世紀フランスが生んだ最高の知性といってよい、この思想家＝作家のエクリチュールの仕事に焦点を当てたい。

今年度の講義ではとりわけ、小説の後半部、ペルシャに残されたハーレムの女たちと宦官たちの叛乱と、ルイ XIV 世没後、摂政期のフランス王国での金融恐慌(ローのシステムの破綻)がパラレルに語られる部分に焦点を当てて読解を進める。

授業計画

授業では順次以下のテーマを扱います。① モンテスキューとその時代——ルイ XIV 世没後のフランスとヨーロッパ ② 『ペルシャ人の手紙』の空間: フランスとペルシャの対比 ③ 第一の連鎖: 登場人物の相互関係 ④ 第二の連鎖: 書簡の相互参照と齟齬 ⑤ 第三の連鎖: 小説・哲学・政治学・道徳論 ⑥ 「見かけ」と「隠蔽」(1) ——パリの社会関係 ⑦ 「見かけ」と「隠蔽」(2) ——ハーレムの社会関係 ⑧ 「卓越性」の社会空間(1) ——フランスの宮廷とペルシャのハーレム ⑨ 「卓越性」の社会空間(2) ——女性の役割 ⑩ 「栄光」の条件 ——貴族的精神の政治的空間 ⑪ 「支配」の論理 ——フランスの宮廷とペルシャのハーレム ⑫ 不在の中心 ——摂政期フランスと主なきハーレム ⑬ 崩壊譚 ——ローのシステムの破綻とハーレムの叛乱

授業の方法

受講者には訳読を担当してもらい、その訳稿を検討しながら作品の分析を進める。

成績評価方法

授業参加、訳読担当、期末レポートを加味して評価する。

教科書

Montesquieu, *Lettres persanes*, éd. Jean Starobinski, Paris, Gallimard, « Folio classique », 1973. (フランス語フランス文学研究室にて販売)

参考書

授業中に適宜指示する。

履修上の注意

2019 年秋学期に開講した『ペルシャ人の手紙』前半部の読解の継続だが、昨年度の講義を受講していない学生の参加を歓迎します。特に『ペルシャ人の手紙』についての予備知識は必要としません。

04203241 フランス語学フランス文学特殊講義 I SIMON-OIKAWA Marianne S1/S2 木曜 4 限

Poesie francaise du XXe siecle

Le cours proposera une présentation d'un siècle de poésie française. De Guillaume Apollinaire à Valérie Rouzeau, douze poètes seront abordés, jusqu'à la poésie ultracontemporaine. L'objectif du cours est de familiariser les étudiants d'une part avec la poésie moderne et contemporaine, d'autre part avec la méthode du commentaire de texte. Il est aussi de les aider, à partir de la lecture des textes, à améliorer leurs compétences en français, surtout en lecture à haute voix et en production écrite.

授業計画

Chaque séance sera consacrée à l'étude d'un poète, abordé à travers un ou plusieurs poèmes.

授業の方法

Dans l'analyse, une attention particulière sera accordée à la présentation du contexte historique, et à l'études caractéristiques formelles des textes. Régulièrement, une partie du cours sera consacrée à des exercices d'écriture créative.

成績評価方法

Deux travaux écrits en cours de semestre.

教科書

Textes distribués en cours.

参考書

Références indiquées en cours.

履修上の注意

L'auteur étudié étant différent chaque semaine, seule une assiduité parfaite permet de comprendre l'ensemble du cours.

04203242 フランス語学フランス文学特殊講義 II SIMON-OIKAWA Marianne S1/S2 月曜 4 限

Lire La Peste, d'Albert Camus

Albert Camus (1913-1960), Prix Nobel de littérature 1957, est connu pour être un des principaux auteurs de l'absurde. Son roman La Peste (1947) raconte l'apparition d'une épidémie dans une petite ville d'Algérie. Les réactions des différents personnages devant ce fléau, d'abord non identifié et peu à peu terrifiant, font réfléchir le lecteur à la conduite à tenir en cas de crise, et au sens de la vie humaine.

Le cours sera l'occasion de s'initier à la méthode du commentaire de texte, mais aussi à la rédaction universitaire en français. Le roman fera en effet l'objet d'un rapport final écrit, qui devra être composé en fonction de règles précises :

choix d'un titre, présentation de la problématique choisie, indication du plan, bibliographie, notes, etc. La préparation de ce travail écrit constitue donc une bonne introduction à la rédaction du mémoire de licence.

授業計画

Neuf séances seront consacrées à la lecture du roman et au commentaire du texte. Quatre séances porteront sur les règles de l'écriture universitaire en français, et seront l'occasion de faire des exercices pratiques. A la fin du cours, les étudiants devront être en mesure de produire un texte construit et argumenté de trois ou quatre pages, portant sur le roman.

授業の方法

Pendant les neuf premières séances, les étudiants seront chargés à tour de rôle de l'explication orale de l'extrait. Nous serons particulièrement attentifs à la construction du texte, et aux procédés stylistiques employés. Pendant les quatre dernières séances, le travail se fera en groupe.

成績評価方法

Un exposé oral et un exercice écrit au cours du semestre.

教科書

Camus, La peste, Folio Plus Classique, ISBN : 9782070349579

参考書

Références indiquées en cours.

履修上の注意

Le cours a une visée à la fois culturelle et méthodologique. Pour être pleinement profitable, l'entraînement doit donc être régulier.

04203267 **フランス語学フランス文学演習 VII** **SIMON-OIKAWA Marianne** **S1/S2** **金曜 2 限**

Lire Rhinocéros, d'Eugène Ionesco

Joué pour la première fois en français en 1960, Rhinocéros d'Eugène Ionesco est une pièce de théâtre qui fait désormais partie du patrimoine littéraire. Dans une petite ville de province, tous les habitants se transforment peu à peu en rhinocéros. Restera-t-il des humains à la fin de la pièce ?

Dans une pièce de théâtre, la diction et la mise en espace sont des éléments importants. Parallèlement à l'étude spécifiquement littéraire du texte, le cours donnera aux étudiants l'occasion de travailler la lecture à haute voix, de regarder des mises en scène, et de s'exercer au jeu d'acteur.

授業計画

Nous commencerons par lire et analyser la pièce dans son ensemble. Trois séances à la fin du semestre seront plus particulièrement consacrées au jeu théâtral, sous la forme d'un atelier pratique.

授業の方法

Chaque séance sera consacrée à l'étude d'une partie du texte : vocabulaire et grammaire, analyse de l'action, des personnages, visionnage d'une mise en scène (DVD). Trois séances seront consacrées à des exercices de diction, de jeu et de mise en scène.

成績評価方法

Un exposé et deux courtes productions écrites (sur le texte et sur l'atelier pratique).

教科書

Eugène Ionesco, Rhinocéros, Folio Plus Classique, ISBN : 978-2070338801

参考書

Références indiquées en cours.

履修上の注意

Pour être pleinement profitable, l'entraînement à la lecture, silencieuse et à haute voix, doit être régulier.

04203268 フランス語学フランス文学演習 VIII SIMON-OIKAWA Marianne S1/S2 水曜 5限

Exercices pratiques du français contemporain

Le cours proposera un entraînement systématique à l'étude et à la pratique de la langue française (compréhension et production orales et écrites). Le niveau visé est celui du DELF B1. Le cours est ouvert à tous ceux qui souhaitent approfondir leur maîtrise de la langue française.

授業計画

Les cours abordera successivement plusieurs thèmes de société, qui seront l'occasion d'exercices écrits et oraux.

授業の方法

Le cours abordera les quatre compétences fondamentales (compréhension écrite et orale, production écrite et orale) à l'aide d'exercices tirés de manuels : documents écrits et visuels, enregistrements sonores.

成績評価方法

Un exposé et un examen final.

教科書

Textes distribués en cours.

参考書

Références indiquées en cours.

履修上の注意

Le cours ayant avant tout une visée pratique, une assiduité régulière est indispensable pour progresser dans les compétences abordées.

04203201 フランス語学概論Ⅰ 杉山利恵子 S1/S2 木曜3限

フランス語統辞論研究

現代フランス語の統辞論の分野におけるいろいろな問題について、入門書から専門書、論文などの抜粋を読み、言語学の用語や概念、フランス語の歴史的変遷などを確認しながら、その問題にさまざまな角度からアプローチする。今年度は「フランス語学概論(1)」「フランス語学概論(2)」ともに「自動詞と他動詞」を中心テーマとし、関連する事項についても考察する。

授業計画

初回の授業で説明する。

授業の方法

講義であるが、訳読や課題の分析など、授業への積極的な参加が求められる。

成績評価方法

授業参加(訳読・意見の発表など)と試験(持ち込み可)。

教科書

授業で使用するテキストは、プリントで配布する。

参考書

初回の授業で参考文献一覧を配布し説明する。その他、必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

専門外であっても、フランス語の中級文法を学ぶレベルであることが望ましい。

04203202 フランス語学概論Ⅱ 杉山利恵子 A1/A2 木曜3限

フランス語統辞論研究

現代フランス語の統辞論の分野におけるいろいろな問題について、入門書から専門書、論文などの抜粋を読み、言語学の用語や概念、フランス語の歴史的変遷などを確認しながら、その問題にさまざまな角度からアプローチする。今年度は「フランス語学概論(1)」「フランス語学概論(2)」ともに「自動詞と他動詞」を中心テーマとし、関連する事項についても考察する。

授業計画

初回の授業で説明する。

授業の方法

講義であるが、訳読や課題の分析など、授業への積極的な参加が求められる。

成績評価方法

授業参加(訳読・意見の発表など)と試験(持ち込み可)。

教科書

授業で使用するテキストは、プリントで配布する。

参考書

初回の授業で参考文献一覧を配布し説明する。その他、必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

少なくとも初級レベルのフランス語文法は終えていること。

04203247 フランス語学フランス文学特殊講義 VII 横山安由美 S1/S2 金曜 4限

古フランス語入門——最古のフランス文学作品『聖アレクシス伝』を読む——

古フランス語文法の基礎を理解し、中世の文献を講読する。講読では、11世紀頃に成立したフランス文学最古の作品のひとつ『聖アレクシス伝』を読む。ローマの富裕な家庭に生まれたアレクシスは結婚式の夜に突然出奔し、ひたすら神に祈りを捧げつつ、貧困のうちに生を終える。偶然実家の家の軒先で息絶えた浮浪者が、実はアレクシスであったことを知って人々は愕然とする。殉教譚でも奇跡譚でもない本作がもつ不思議な魅力について考えてゆきたい。なおこの作品は早くも1592年にイエズス会士によって日本に伝わっている(『サントスの御作業』)。

また中世作品を読むにあたっては筆写の現場の理解が不可欠である。簡単に写本学の導入を行い、『聖アレクシス伝』の写本の読解練習を行う予定である。

授業計画

基本的に以下の順番で進めるが、進度や受講者の関心によって若干変更することがありうる。1. 中世フランス文学概説 2. フランス語史概説(ラテン語からフランス語へ) 3. 名詞(格変化など) 4. 冠詞、形容詞、代名詞など 5. 動詞と統辞上の諸問題 6. 中世の古文書と文献学 7. 作品講読 8. 作品講読 9. 作品講読 10. 作品講読 11. 作品講読 12. 作品講読 13. 作品講読 14. まとめ

授業の方法

前半はプリントに沿って基本的な文法事項を説明し、簡単な例文を読んでいく。後半の作品講読では『聖アレクシス伝』を訳読する。適宜写本のコピーも参照する。

成績評価方法

平常点 70%(出席、課題、積極的参加度)、期末レポート 30%

教科書

プリント配布

参考書

Guy Raynaud de Lage, "Introduction à l'Ancien Français", SEDES, 1975 (ギ=レノ・ド・ラージュ『古フランス語入門』朝日出版社、1981) Gaston Paris(ed.), "La Vie de Saint Alexis", Champion, 1980 原野昇編『フランス中世文学を学ぶ人のために』世界思想社、2007 高山博・池上俊一『西洋中世学入門』東大出版会、2005 *その他授業中に適宜指示する。

履修上の注意

中世に興味があり、初歩的なフランス語力があれば、誰でも受講が可能です。古い世界を楽しんでみましょう。ただし講読については毎回予習が必要です。ラテン語の知識があると役に立ちます。

04203248 フランス語学フランス文学特殊講義 VIII 井上櫻子 S1/S2 火曜 4限

ジャン=ジャック・ルソーの自伝を読む

18世紀フランスを代表する思想家ジャン=ジャック・ルソーの自伝三部作(『告白』、『ルソー、ジャン=ジャックを裁く 対話』、『孤独な散歩者の夢想』)から有名なエピソードと、それらについての代表的批評を紹介していきます。フランス語の読解力向上を目指すとともに、テキスト分析の方法を学んでいきましょう。

授業計画

1. イントロダクション 2.『告白』第1巻を読む(1) 3.『告白』第1巻を読む(2) 4.「自伝契約」とは:フィリップ・ルジュンヌの批評(1) 5.「自伝契約」とは:フィリップ・ルジュンヌの批評(2) 6.「トリノの午餐」:スタロバンスキーの批評(1) 7.「トリノの午餐」:スタロバンスキーの批評(2) 8.『ルソー、ジャン=ジャックを裁く 対話』とルソーの著名性の問題(1) 9.『ルソー、ジャン=ジャックを裁く 対話』とルソーの著名性の問題(2) 10.『孤独な散歩者の夢想』を読む(1) 11.『孤独な散歩者の夢想』を読む(2) 12.『孤独な散歩者の夢想』を読む(3) 13.後世の自伝文学への影響、まとめ

授業の方法

担当教員がルソーの作品およびそれに関連する批評の抜粋をプリントで配布しますので、履修者の皆さんには宿題として和訳を準備していただきます。授業内では、和訳の検討を行うほか、卒論の執筆にも役立つようなテキスト分析の方法も学んでいきます。

成績評価方法

平常点(出席率、課題への取り組み方を総合して判断します)50%、期末に提出するレポート50%。

教科書

プリントを配布します。

参考書

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意

授業内での作業が多くなりますので、授業には休まず出席するようにしてください。履修者の皆さんの積極的な発言を歓迎します。

04203249 フランス語学フランス文学特殊講義 IX 畠山達 A1/A2 金曜 5限

ボードレール『悪の華』を読む

『悪の華』を通して、詩の読み方、詩法、解釈の多様性を知る。汲み尽くすことのできない文化的・政治的・文学的背景を詩から読み解く。

授業計画

(以下は予定であり、状況に応じて順番も含めて変更する可能性がある。) 1. ガイダンス、フランス詩の歴史とボードレール 2. 「読者に」 3. 「万物照応」 4. 「バルコニー」、「異国の香り」 5. 「吸血鬼の変身」 6. 「貧者の葡萄酒」 7. 「風景」 8. 「通りすがりの女」 9. 「白鳥」 10. 「七人の老人」 11. 「高翔」 12. 「敵」、「秋の歌」 13. 総復習 まとめ

授業の方法

最初に、詩の技法、音節、脚韻に着目しながら音読し、音とリズムを正確にとれるようにする。次に、どのような訳が可能か検討する。その上で、歴史的背景、関連すると思われる文学・絵画作品、ボードレールの書いた他の作品、書簡、さらには先行研究などを参照しながら、解釈の可能性を徹底的に探る。

成績評価方法

1. 毎回の予習と授業内での質疑応答(50%) 2. 定期試験(詩の暗唱・訳・解釈)(50%)

教科書

プリント配布

参考書

・『ボードレール全集 I 悪の華』阿部良雄訳、筑摩書房、1983年。・Baudelaire, Œuvres complètes, texte établi et annoté par Claude Pichois, Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, tome I, 1975.

履修上の注意

毎回必ず、音読の練習、訳の作成、解釈を考えてきて、授業内で積極的に発言すること。

04205621 フランス語前期 I 横山安由美 S1/S2 金曜 3限

フランス語前期 I

フランス語の文法を理解し、平易な文章が読めるようになる。

授業計画

1. フランス語の綴りと発音 2. 名詞・形容詞 3. 動詞の活用の基礎(être, avoir, 第一群規則動詞の直説法現在形) 4. 動詞の活用の基礎(第二群規則動詞、否定文と疑問文) 5. 直説法複合過去 6. 受動態、命令法 7. 比較級 8. 代名動詞 9. 簡単な文章講読 10. 簡単な文章講読 11. フランス映画を見る 12. 期末試験とまとめ

授業の方法

初めて学習する者を対象に、教科書に沿って文法事項の説明を行い、練習問題によって確認を行う。文法を中心とするが、音読や聞き取りの練習も行い、フランス語の総合的な習得を目標とする。後半では、平易な文章を実際に読んだり、視聴覚教材を用いるなどして、フランス文化や文学の世界に触れる。

成績評価方法

平常点 50% (出席、課題、積極的参加度など)、期末試験 50%

教科書

京都大学フランス語教室編『新初等フランス語教本<文法編>』(五訂版)、白水社

参考書

朝比奈美知子他『フランス文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房

履修上の注意

毎回の予習復習が必要。

04205622 **フランス語前期Ⅱ** 横山安由美 A1/A2 金曜 3限

フランス語前期Ⅱ

フランス語の文法を理解し、原典が読めるようになる。

授業計画

1. 直説法半過去 2. 直説法単純未来 3. 直説法単純過去 4. 関係代名詞 5. 人称代名詞、指示代名詞など 6. 非人称表現など 7. 条件法現在、過去 8. 接続法現在、過去 9. 文章講読 10. 文章講読 11. フランスの映像を見る 12. 期末試験とまとめ

授業の方法

教科書に沿って文法事項の説明を行い、練習問題によって確認を行う。文法を中心とするが、音読や聞き取りの練習も行い、フランス語の総合的な習得を目標とする。後半では、平易な文章を実際に読んだり、視聴覚教材を用いるなどして、フランス文化や文学の世界に触れる。文章講読では、学生の希望する作品を選びたい。

成績評価方法

平常点 50% (出席、課題、積極的参加度など)、期末試験 50%

教科書

京都大学フランス語教室編『新初等フランス語教本<文法編>』(五訂版)、白水社

参考書

朝比奈美知子他『フランス文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房

履修上の注意

毎回の予習復習が必要。

その他

S 学期の授業の続きになるが、A 学期からの受講も可能。ただし S 学期の内容を自分でフォローしておくことが必要。

04205623 フランス語後期 I 井上櫻子 S1/S2 火曜 3 限

やさしい文学テキストの読解に挑戦しよう

フランス語の初級文法の学習を一通り終えた皆さん向けの授業です。教科書『ことばの色』は、おもに 19 世紀から 20 世紀にかけての著名な文学作品からの抜粋をまとめたアンソロジーです。文法知識のさらなる定着と、読解力の向上を目指す中で、フランス文学の広がりも感じ取ってみましょう。

授業計画

1. イントロダクション 2. ロジェ・グルニエ「レオノール」 3. ナタリー・サロート『つまらぬことで』 4. アントワーヌ・レリス『ぼくは君たちを憎まない』 5. エリック＝エマニュエル・シュミット『ノアの子』 6. ジャック・プレヴェール「家族のうた」 7. ジュール・シュペルヴィエル『人さらい』 8. パトリック・モディアノ『血統書』 9. フランソワ・ド・ラ・ロシュフコー『箴言集』 10. ジュール・シュペルヴィエル「すなおさ」 11. ユベール・マンガレリ『終わりの雪』 12. フランスの現代文学に触れる 13. 期末試験とまとめ

授業の方法

履修者の皆さんには、毎回教科書に掲載されているテキストの和訳を準備してきていただき、それを教室で検討するという方法で進めていきます。また、時間に余裕のある範囲で、授業担当者がそれぞれの作品の生まれた背景についても説明していきます。

成績評価方法

平常点(出席率、課題への取り組み方など)30%、期末試験 70%

教科書

杉本圭子、福田桃子、岡部杏子『ことばの色—中級からのフランス文学読本—』、朝日出版社、2020 年。

参考書

授業中に適宜指示します。

履修上の注意

毎回の予習が必要。

04205624 フランス語後期Ⅱ 井上櫻子 A1/A2 火曜3限**やさしい文学テキストの読解に挑戦しよう**

フランス語の初級文法の学習を一通り終えた皆さん向けの授業です。教科書『ことばの色』は、おもに19世紀から20世紀にかけての著名な文学作品からの抜粋をまとめたアンソロジーです。文法知識のさらなる定着と、読解力の向上を目指す中で、フランス文学の広がりも感じ取ってみましょう。

授業計画

1. イントロダクション 2. アルチュール・ランボー「夜明け」 3. ギョーム・アポリネール「オレンジード」 4. アラン＝フルニエ『グラン・モーヌ』 5. オノレ・ド・バルザック『砂漠の情熱』 6. イレーヌ・ネミロフスキー『舞踏会』 7. ジョルジュ・サンド「花たちのおしゃべり」 8. シャルル・ボードレー「窓」、「スープと雲」 9. フランシス・ポンジュ「水について」 10. ジョルジュ・ペレック『消滅』 11. ミシェル・ビュトール「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール『ダイヤのエースを持ついかさま師』」 12. 19世紀のフランス文学に触れる 13. 期末試験とまとめ

授業の方法

履修者の皆さんには、毎回教科書に掲載されているテキストの和訳を準備していただき、それを教室で検討するという方法で進めていきます。また、時間に余裕のある範囲で、授業担当者がそれぞれの作品の生まれた背景についても説明していきます。

成績評価方法

平常点(出席率、課題への取り組み方など)30%、期末試験70%

教科書

杉本圭子、福田桃子、岡部杏子『ことばの色—中級からのフランス文学読本—』、朝日出版社、2020年。

参考書

授業中に適宜指示します。

履修上の注意

毎回の予習が必要。

04203299 卒業論文(卒業論文指導を含む) A1/A2

教員:各教員

単位:12